

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のあゆみ
(史資料の収集・整理・活用のとりくみの概要)

2025. 10

2011. 11. 25 発足についての記者会見（岩佐幹三・大江健三郎・安斎育郎、肥田舜太郎、司会：木戸季市）
2011. 12. 11 「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」発足
2012. 4 NPO 法人化
- 杉並区阿佐ヶ谷に資料準備室（物故役員の遺族からの寄贈資料などの収集・保管をはじめる）
- 2012～2017 長崎、広島、熊本の被爆者の会、関係者、資料館等に史料調査
- 2013 愛宕山弁護士ビル4階407号室借用（弁護士ご遺族より）
2013. 8. 5～ 愛宕事務所で、昭和女子大学松田忍先生の協力のもと、学生による被団協運動史料の整理作業が始まる（はじめは段ボール約90箱から）。～2024. 3 計118回の整理会。参加者総数125名
2013. 9. 14 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター「基本構想」発表
2015. 7. 1 生活協同組合コープみらいより、コーププラザ浦和「4階本部室」を資料室として借用
2015. 7. 23 杉並の資料準備室等から、愛宕事務所、南浦和資料庫に搬入
2015. 8. 29 南浦和資料室開設（コープ浦和4階、54.2㎡）。もんじょ箱の保管庫および書籍整理作業の場に
2015. 11. 14～2020. 1. 18 被爆者運動に学び合う学習懇談会（全15回）
2018. 6. 4 昭和女子大学「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」（戦後史PJ）発足。毎年11月の秋桜祭で企画展（第1回：被爆者に「なる」～2024. 11「史料が語る日本被団協の歩み」。2021年には光葉博物館で秋の特別展「被爆者の足跡ー被団協関連文書の歴史的研究からー」を1か月余にわたり開催）
2018. 12. 15 被爆者の声を未来につなぐ公開ミーティング～「ノーモア・ヒバクシャ継承センター」の設立をめざして～（於・武蔵大学）
2021. 12. 11 設立10周年企画 Part I
“ノーモア・ヒバクシャ”継承の拠点を各地に
22. 3. 10 Part II 被爆者運動史料 その意義と活用～「戦後史PJ」の4年

間を振り返って

22. 5. 21 PartⅢ 「今こそ“ノーモア・ヒバクシャ”」

2022. 10. 15 南浦和資料室 4階から2階に移設

2022. 11. 11～13 国連原爆展 in Tokyo（於・日本青年館）

2023. 3 一橋大学小平プロジェクト室より 85 原爆被害者調査および 77
シンポ一般調査の調査原票引き取り（43 箱）、当面倉庫に保管

2023. 8 オンライン「国連原爆展」（英・日）公開

2024. 3. 31 愛宕弁護士事務所の取り壊しに伴い、南浦和資料室（87 箱）、生
協都連会議室（40 箱）に、愛宕事務所のもんじょ箱移転

2024. 8 各県被爆者の会発行の被爆体験記のオンライン公開開始

2024. 10. 11～ 日本被団協へのノーベル平和賞授賞により、継承する会が保管
する史資料への取材が相次ぐ

2025. 7. 19 国際シンポジウム「未来への記憶の遺産—原爆資料をどう継承
するか—」（広島）で基調講演（日本被団協の足跡を未来につなぐ～継
承する会のとりくみと課題～）

ノルウェー・ノーベル委員会 フリードネス委員長のビデオメッセージから

私たちは学ぶことができる。記憶し、努力することができる。

被害を記録し、保存する仕事は、日本だけでなく、世界の歴史にとって極
めて重要なことだ。

記憶の保存は平和の作業、軍縮の一環だ。

歴史の忘却に抗い、声をあげていく。私たちの生存はそれにかかっている。

2025. 10. 21 都生協連に預けてある運動史料（もんじょ箱 47 箱分）と、倉庫
保管の 85, 77 調査票の原票（43 箱分）および未整理の書籍・冊子類
（ダンボール約 40 箱分）を、杉並区の大学生協会館に移す

【史資料の現況】

1. 書籍・冊子類

目録はHPに公開（約 7000 点。冊数、その後の追加点数を考慮すると 2～
3 倍にはなる？）

核関連文献／体験記・手記／調査・研究／被爆者運動史／文学・芸術／学習
と継承 他に、総記・他の戦争被害に関する文献もあり（リスト化未完）

2. 被爆者運動史料（不定形の史料） 約 7,600 点（ざっくりした点数）

もんじょ箱に、251 箱（うち未整理の調査原票が 43 箱分）